

令和7年度 評価規準

学校名：江戸川区立小岩第四中学校

教科	技術・家庭		分野	技術	学年	第1学年
単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)・内容			単元のまとまりの評価規準	
技術分野のガイダンス	1～2	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの製品に込められた技術の工夫やアイデアを調べ、発表することができる。 技術の発達による生活や産業の変化を調べることができる。 身の回りの製品などを「技術の見方・考え方」の視点で観察することができる。 			<ul style="list-style-type: none"> 3学年間の技術分野の学習に見通しを持ち、主体的に学習に取り組もうとしている。(態) 	
1編1章 材料と加工の技術の原理・法則と仕組み	3～7	<p>①身の回りの材料と加工の技術</p> <ul style="list-style-type: none"> 身の回りの製品を見て、なぜその材料が使われているかを考えることができる。 身の回りの製品に使われている材料と加工の技術について調べることができる。 <p>②木材、金属、プラスチックの特性</p> <ul style="list-style-type: none"> 木材、金属、プラスチックの特性について調べることができる。 木材、金属、プラスチックがどのような製品に利用されているかをまとめることができる。 <p>③材料に適した加工方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 工具や機器を加工の特性や方法に応じて分類することができる。 材料と目的に応じた工具や機器を選択することができる。 工具や機器を安全に使用方法や技術室の安全のための決まりを調べることができる。 簡単な加工体験を行うことができる。 <p>④丈夫な製品を作るために</p> <ul style="list-style-type: none"> 製品を丈夫にするための材料と加工の技術の工夫について調べることができる。 部材の組み合わせや接合の方法などを工夫して製品を丈夫にする方法を考えることができる。 <p>⑤材料と加工の技術の工夫を読み取ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> 材料と加工の技術に込められた問題解決の工夫について考えることができる。 身近な製品の問題解決の工夫などから、「技術の見方・考え方」について気付いたことをまとめることができる。 			<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの製品に生かされている材料の特性と材料に適した加工方法について理解している。(知) 木材、金属、プラスチックなどの特性と特性を生かした利用方法について理解している。(知) 目的とする加工に応じた工具や機器について理解している。(知) 工具や機器を適切に選択し、簡単な製作品を製作できる技能を身に付けている。(知) 身の回りの製品を丈夫にする方法を調べる活動などを通して、構造と部材を丈夫にする方法について理解している。(知) 身の回りの製品が材料と加工の技術によって最適化されていることに気付くことができる。(思) 材料と加工の技術に込められた工夫点について考えている。(思) 主体的に材料と加工の技術について考え、理解しようとしている。(態) 	

教科	技術・家庭		分野	技術	学年	第1学年	②
単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)・内容			単元のまとまりの評価規準		
1編2章 材料と加工の技術による問題解決	8～21	<p>①問題を発見し、課題を設定しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な生活や学校などで、材料と加工の技術によって解決できる問題を見つけることができる。 ・発見した問題を解決するための課題を設定することができる。 <p>②製作品を構想し、設計しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を解決するために、使用目的や使用条件に合わせて、製作品の構想を具体化することができる。 ・機能の検討 ・材料の検討 ・構造の検討 ・加工方法の検討 ・製作に必要な図に表すことができる。 <p>③製作の計画を立てよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製作に必要な図を基に、部品表、材料取り図を作成し、製作に必要な材料を準備することができる。 ・製作工程表を作成することができる。 ・工程ごとに使用する工具や機器を調べることができる。 <p>④作業手順を考えて製作しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・切り代や削り代を見込んで、仕上がり寸法線と切断線をけがくことができる。 ・材料を切断線にしたがって切断することができる。 ・寸法線にしたがって加工することができる。 ・加工後、検査・修正し、仮組み立てをすることができる。 ・組み立てをする。組み立て後、検査・修正することができる。 ・素材や用途に合った表面処理をすることができる。 <p>⑤問題解決の評価、改善・修正</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料と加工の技術による問題解決を振り返り、解決結果及び解決過程を評価し、改善・修正する方法について考えることができる。 			<p>・「技術の見方・考え方」を働かせて、問題を発見し、自分なりの課題を設定する力を身に付けている。(思)</p> <p>・製作に必要な図の描き方を理解している。(知)</p> <p>・製作に必要な図に表すことができる技能を身に付けている。(知)</p> <p>・材料の選択や成形の方法などを構想し、設計を具体化する力を身に付けている。(思)</p> <p>・構想に基づいて、製作の計画を立てることができる力を身に付けている。(思)</p> <p>・安全・適切な製作や検査・修正をすることができる技能を身に付けている。(知)</p> <p>・製作の過程や問題解決の結果を評価し、改善及び修正する力を身に付けている。(思)</p> <p>・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりしようとしている。(態)</p>		

教科	技術・家庭	分野	技術	学年	第1学年	③
単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)・内容		単元のまとまりの評価規準		
1編3章 社会の発展と材料と加工の技術	22～ 23	<p>①材料と加工の技術の最適化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の問題解決における最適化の場面を振り返り、社会の問題解決における最適化と比較することができる。 ・社会からの要求 ・安全性 ・環境への負荷 ・経済性 <p>②これからの材料と加工の技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会の構築のために、これからの材料と加工の技術について考えることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・材料と加工の技術の概念について理解している。(知) ・材料と加工の技術の最適化について考えている。(思) 		
4編1章 情報の技術の原理・法則と仕組み	24～ 28	<p>①情報の技術とは何だろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活や社会、産業のさまざまな場面でコンピュータなどの情報の技術が利用されていることを知ることができる。 ・コンピュータを構成するハードウェアとソフトウェアについてまとめることができる。 <p>②情報のデジタル化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータは全ての情報を数値化して処理していることを知ることができる。 ・情報のデジタル化の方法をまとめることができる。 ・画像をデジタル化する方法やデータ量との関係についてまとめることができる。 <p>③情報通信ネットワークの仕組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報通信ネットワークの仕組みについてまとめることができる。 ・情報通信ネットワークを使って、情報をやりとりする仕組みについて知ることができる。 <p>④安全に利用するための情報モラル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の特性について考え、情報が社会に与える影響について調べることができる。 ・望ましい情報社会のための態度について考えることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・これからの材料と加工の技術について考えている。(思) ・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、材料と加工の技術を工夫し創造しようとしている。(態) ・情報の表現や記録ができる仕組みを理解している。(知) ・情報のデジタル化の仕組み、デジタル化の方法とデータ量の関係を理解している。(知) ・情報通信ネットワークの構成について理解している。(知) ・情報通信ネットワーク上での情報を利用する仕組みについて理解している。(知) ・情報の特性を理解して、情報を安全に利用することができる技能を身に付けている。(知) ・情報が社会に与える影響を理解して、望ましい情報社会のために取るべき態度を身に付けている。(態) 		

教科	技術・家庭		分野	技術	学年	第1学年	④
単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)・内容			単元のまとまりの評価規準		
4編2章 双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決	29～35	⑤安全に利用するための情報セキュリティ ・情報セキュリティを実現するための3つの要素を知ることができる。 ・機密性 ・完全性 ・可用性 ・情報通信ネットワークにおけるサイバーセキュリティの重要性について考えることができる。 ・セキュリティ対策のためのソフトウェアやシステムがあることを知ることができる。			・情報セキュリティの基本的な知識について理解している。(知) ・情報の安全を確保するために必要な判断や対応をする力を身に付けている。(思)		
		⑥情報の技術の工夫を読み取ろう ・情報の技術に込められた問題解決の工夫について考えることができる。 ・身近なシステムや自動化の技術の問題解決の工夫などから、「技術の見方・考え方」について気付いたことをまとめることができる。			・身の回りにある情報の技術に込められた工夫について考えている。(思) ・主体的に情報の技術について考え、理解しようとしている。(態)		
		①双方向性のあるコンテンツのプログラミングとは何だろう ・双方向性のあるコンテンツにはどのようなものがあるか調べることができる。 ・双方向性のあるコンテンツの基本的な仕組みについて考えることができる。			・双方向性のあるコンテンツの基本的な仕組みを理解している。(知)		
		②問題を発見し、課題を設定しよう ・双方向性のあるコンテンツのプログラミングによって解決できる問題を見つけることができる。 ・発見した問題を解決するための課題を設定することができる。			・「技術の見方・考え方」を働かせて、問題を発見し、自分なりの課題を設定する力を身に付けている。(思)		
		③コンテンツを構想しよう ・問題を解決するためのコンテンツに必要な情報を収集し、解決策を具体化することができる。 ・構想の具体化 ・情報処理の手順の整理 ・必要な機能の整理			・使用するメディアを複合する方法とその効果的な利用方法を構想する力を身に付けている。(思)		
		④コンテンツのプログラムを制作しよう ・安全で適切なプログラムの制作と動作の確認、デバッグを行うことができる。 ・使用する人のことを考えてプログラムを制作することができる。			・安全で適切なプログラムの制作と動作の確認、デバッグができる技能を身に付けている。(知) ・情報処理の手順を具体化する力を身に付けている。(思)		

令和7年度 評価規準

学校名：江戸川区立小岩第四中学校

教科	技術・家庭		分野	技術	学年	第1学年 ⑤
単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)・内容			単元のまとまりの評価規準	
		⑤問題解決の評価, 改善・修正 ・双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決を振り返り, 解決結果及び解決過程を評価し, 改善・修正する方法について考えることができる。			・コンテンツのプログラムの制作の過程や問題解決の結果を評価し, 改善及び修正する力を身に付けている。(思) ・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて, 課題の解決に主体的に取り組んだり, 振り返って改善したりしようとしている。(態)	

令和7年度 評価規準

学校名：江戸川区立小岩第四中学校

教科	技術・家庭	分野	技術	学年	第2学年	①
単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)・内容		単元のまとまりの評価規準		
2編1章 生物育成の技術の原理・法則と仕組み ※材料と加工の分野については1年次を参照	1～12	<p>①生物育成の技術とは何だろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物育成の技術の目的を知ることができる。 ・食料の生産 ・材料・燃料の生産 ・健康・医療など ・自然環境の保全 <p>・生物育成の技術についてまとめることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育成環境を調節する技術 ・生物の成長を管理する技術 ・生物の特徴を改良する技術 <p>・地域の特産物を調べ、どのような技術が用いられているか調べ、まとめることができる。</p> <p>②作物の育成環境を調節する技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作物の育成環境を調節する技術について調べることができる。 ・光の管理 ・温度の管理 ・水分の管理 ・土の管理 など <p>・スプラウトの育成を行い、育成環境を調節する技術を体験することができる。</p> <p>③作物の成長を管理する技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作物の成長を管理する技術について調べることができる。 ・作物の成長を管理する技術とその目的についてまとめることができる。 <p>④動物を育てる技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人と動物との関わりについて知ることができる。 ・家畜としての動物の利用方法を調べることができる。 ・動物を健康に育てるための技術を調べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生物を育てる技術の目的について理解している。(知) <ul style="list-style-type: none"> ・作物の育成環境を調節する技術について理解している。(知) ・育成環境を工夫してスプラウトを育成することができる技能を身に付けている。(知) <ul style="list-style-type: none"> ・作物の成長を管理する技術について理解している。(知) <ul style="list-style-type: none"> ・動物を健康に育てるための技術について理解している。(知) 			

教科	技術・家庭	分野	技術	学年	第2学年	②
単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)・内容		単元のまとまりの評価規準		
2編2章 生物育成の技術による問題解決		<p>⑤水産生物を育てる技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産生物を安定的に供給するための養殖の技術について知ることができる。 ・水産生物を健康に育てるための技術を調べることができる。 <p>⑥生物育成の技術の工夫を読み取る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物育成の技術に込められた問題解決の工夫について考えることができる。 ・食料の生産における問題解決の工夫などから、「技術の見方・考え方」について気付いたことをまとめることができる。 <p>①問題を発見し、課題を設定しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭、学校、地域、社会における生物育成の技術によって解決できる問題を見つけることができる。 ・発見した問題を解決するための課題を設定することができる。 <p>②生物の育成計画を立てよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物を育てる目的を考え、生物の成長に合わせた育成計画を立てることができる。 ・販売用、自家消費用、 ・食用、観賞用、加工用、飼料用 など ・作物やその品種に応じた育て方を調べ、栽培計画表にまとめることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・水産生物を安定的に供給するための養殖の技術について理解している。(知) ・生物育成の技術に込められた問題解決の工夫について考えている。(思) ・主体的に生物育成の技術について考え、理解しようとしている。(態) ・「技術の見方・考え方」を働かせて、問題を発見し、自分なりの課題を設定する力を身に付けている。(思) ・育成する作物に適した環境条件について考えている。(思) ・育成する目的に合わせて、栽培計画を立てる力を身に付けている。(思) 		

令和7年度 評価規準

学校名：江戸川区立小岩第四中学校

教科	技術・家庭	分野	技術	学年	第2学年	③
単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)・内容		単元のまとまりの評価規準		
2編3章 社会の発展と生物育成の技術	13~14	<p>③成長段階に合わせて適切に育成しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全に配慮し、成長の状態に合わせて、適切な管理作業を行うことができる。 (ミニトマトの場合) ・定植 ・支柱立て・誘引 ・かん水 ・元肥・追肥 ・摘芽・摘芯・受粉 ・健康管理, 病虫害駆除 ・収穫 ・管理作業の内容を, 栽培記録表にまとめることができる。 <p>④問題解決の評価, 改善・修正</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物育成の技術による問題解決を振り返り, 解決結果及び解決過程を評価し, 改善・修正する方法について考えることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・植物の成長の状態に合わせて, 適切な管理作業を行う技能を身に付けている。(知) ・育成の過程や問題解決の結果を評価し, 改善及び修正する力を身に付けている。(思) ・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて, 課題の解決に主体的に取り組んだり, 振り返って改善したりしようとしている。(態) 		
		<p>①生物育成の技術の最適化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の問題解決における最適化の場面を振り返り, 社会の問題解決における最適化と比較することができる。 ・社会からの要求 ・安全性 ・環境への負荷 ・経済性 ・生物育成の技術のプラス面, マイナス面について考え, これからどのように技術の最適化を図っていくとよいかをまとめることができる。 <p>②これからの生物育成の技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会の構築のために, これからの生物育成の技術について考えることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・生物育成の技術の概念について理解している。(知) ・生物育成の技術の最適化について考えている。(思) ・これからの生物育成の技術について考えている。(思) ・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて, 生物育成の技術を工夫し創造しようとしている。(態) 		

教科	技術・家庭	分野	技術	学年	第2学年	④
単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)・内容		単元のまとまりの評価規準		
3編1章 エネルギー変換の技術の原理・法則と仕組み	15～ 22	<p>①エネルギー変換の技術とは何だろう</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活や社会の中で利用されているエネルギー変換の技術について調べることができる。 エネルギー変換効率について知ることができる。 <p>②発電の仕組みと特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> 発電の仕組みと特徴についてまとめることができる。 さまざまな発電方法のプラス面、マイナス面について調べ、適切な発電構成割合について自分なりに考えることができる。 <p>③電気を供給する仕組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 電源の種類と特徴についてまとめることができる。 送電・配電について調べることができる。 <p>④電気回路について考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 電気エネルギーを利用する仕組みを調べることができる。 電気回路について、電気用図記号を用いた回路図で表すことができる。 <p>⑤電気機器を安全に使用するための技術</p> <ul style="list-style-type: none"> 電気を安全に使うための技術の工夫について調べ、まとめることができる。 漏電 感電 電気機器の安全な使い方について考えることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 生活や社会の中で利用されているエネルギー変換の技術について理解している。(知) 発電の仕組みと特徴について理解している。(知) さまざまな発電方法に込められた技術の工夫について考えている。(思) 電源の種類と特徴や、送電・配電の仕組みを理解している。(知) 送電・配電の技術の工夫について考えている。(思) 電気回路の仕組みについて理解している。(知) 簡単な電気回路を回路図で表すことができる技能を身に付けている。(知) 電気機器の安全な使い方について理解している。(知) 電気による事故を防ぐ方法について考えている。(思) 		

教科	技術・家庭	分野	技術	学年	第2学年	⑤
単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)・内容		単元のまとまりの評価規準		
		<p>⑥運動エネルギーへの変換と利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機械が運動を伝える仕組みについて調べることができる。 ・機械の運動の種類とエネルギー変換についてまとめることができる。 <p>⑦回転運動を伝える仕組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回転運動を伝える仕組みの特徴と用途を調べることができる。 ・回転速度と回転力の関係を調べることができる。 <p>⑧機械が動く仕組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・往復直線運動や揺動運動などを伝えるリンク装置やカム装置の仕組みを調べることができる。 ・流体を用いて動く機械や熱エネルギーで動く機械を調べることができる。 <p>⑨機械の共通部品と保守点検の大切さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機械の共通部品について知ることができる。 ・機械を安全に利用するために保守点検が必要であることを知ることができる。 ・身近な機械の保守点検をすることができる。 <p>⑩エネルギー変換の技術の工夫を読み取ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー変換の技術に込められた問題解決の工夫について考えることができる。 ・身近な製品の問題解決の工夫などから、「技術の見方・考え方」について気付いたことをまとめることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・機械が運動を伝える仕組みについて理解している。(知) ・運動の種類とエネルギー変換について理解している。(知) <ul style="list-style-type: none"> ・回転運動を伝える仕組みの特徴と用途を理解している。(知) <ul style="list-style-type: none"> ・リンク機構やカム機構について理解している。(知) ・熱や水、空気などの流体を用いたエネルギー変換の特性について理解している。(知) <ul style="list-style-type: none"> ・機械の共通部品と保守点検の大切さについて理解している。(知) <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー変換の技術に込められた問題解決の工夫について考えている。(思) ・主体的にエネルギー変換の技術について考え、理解しようとしている。(態) 		

令和7年度 評価規準

学校名: 江戸川区立小岩第四中学校

教科	技術・家庭	分野	技術	学年	第2学年	⑥
単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)・内容		単元のまとまりの評価規準		
3編2章 エネルギー変換の技術による問題解決	23～ 33	<p>①問題を発見し、課題を設定しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活や社会における光, 熱, 動力などのエネルギー変換の技術によって解決できる問題を見つけることができる。 発見した問題を解決するための課題を設定することができる。 <p>②電気回路を設計・製作しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計要素を検討することができる。 <ul style="list-style-type: none"> 電源 制御 負荷 構想をまとめ、製作に必要な図を描くことができる。 プロトタイプ(試作), シミュレーションを行うことができる。 目的の電気回路が決まったら, 安全に配慮し, 製作, 実装, 点検・調整を行うことができる。 <p>③機構モデルを設計・製作しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計要素を検討することができる。 <ul style="list-style-type: none"> 動力源 運動を伝える仕組み 仕事をする仕組み 構想をまとめ、製作に必要な図を描くことができる。 プロトタイプ(試作), シミュレーションを行うことができる。 目的の機構の動きが決まったら, 安全に配慮し, 製作, 実装, 点検・調整を行うことができる。 <p>④問題解決の評価, 改善・修正</p> <ul style="list-style-type: none"> エネルギー変換の技術による問題解決を振り返り, 解決結果及び解決過程を評価し, 改善・修正する方法について考えることができる。 		<p>・「技術の見方・考え方」を働かせて, 問題を発見し, 自分なりの課題を設定する力を身に付けている。(思)</p> <p>・構想に基づいて設計し, 電気回路の回路図や組立図にまとめることができる技能を身に付けている。(知)</p> <p>・構想に基づいて, 製作の計画を立てる力を身に付けている。(思)</p> <p>・構想に基づいて設計し, 機構モデルの回路図や組立図にまとめることができる技能を身に付けている。(知)</p> <p>・構想に基づいて, 製作の計画を立てる力を身に付けている。(思)</p> <p>・製作の過程や問題解決の結果を評価し, 改善及び修正する力を身に付けている。(思)</p> <p>・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて, 課題の解決に主体的に取り組んだり, 振り返って改善したりしようとしている。(態)</p>		

令和7年度 評価規準

学校名: 江戸川区立小岩第四中学校

教科	技術・家庭	分野	技術	学年	第2学年	⑦
単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)・内容		単元のまとまりの評価規準		
3編3章 社会の発展とエネルギー変換の技術	34～ 35	<p>①エネルギー変換の技術の最適化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の問題解決における最適化の場面を振り返り, 社会の問題解決における最適化と比較することができる。 ・社会からの要求 ・安全性 ・環境への負荷 ・経済性 <p>・エネルギー変換の技術のプラス面, マイナス面について考え, これからどのように技術の最適化を図っていくとよいかをまとめることができる。</p> <p>②これからのエネルギー変換の技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会の構築のために, これからのエネルギー変換の技術について考えることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー変換の技術の概念について理解している。(知) ・エネルギー変換の技術の最適化について考えている。(思) <ul style="list-style-type: none"> ・これからのエネルギー変換の技術について考えている。(思) ・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて, エネルギー変換の技術を工夫し創造しようとしている。(態) 		

教科	技術・家庭		分野	技術	学年	第3学年	①
単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)・内容			単元のまとまりの評価規準		
4編3章 計測・制御のプログラミングによる問題解決	1～14	<p>①計測・制御システムとは何だろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りにある計測・制御システムを調べることができる。 ・計測・制御システムにおけるプログラムの役割を調べることができる。 ・計測・制御システムの基本的な構成と情報の流れを調べることができる。 <p>②問題を発見し、課題を設定しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計測・制御のプログラミングによって解決できる問題を見つけることができる。 ・発見した問題を解決するための課題を設定することができる。 <p>③計測・制御システムを構想しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題を解決するための計測・制御システムに必要な情報を収集し、解決策を具体化することができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・センサと仕事を行う部分の選択 ・計測・制御システムの構成の整理 ・情報処理の手順の整理 <p>④計測・制御システムのプログラムを制作しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全で適切なプログラムの制作と動作の確認、デバッグを行うことができる。 ・エネルギー変換の技術による問題解決の学習を生かして、自動化・システム化が実現するプログラムを制作することができる。 <p>⑤問題解決の評価、改善・修正</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計測・制御のプログラミングによる問題解決を振り返り、解決結果及び解決過程を評価し、改善・修正する方法について考えることができる。 			<ul style="list-style-type: none"> ・計測・制御システムの基本的な構成を理解している。(知) ・計測・制御システムにおけるプログラムの役割を理解している。(知) <p>・「技術の見方・考え方」を働かせて、問題を発見し、自分なりの課題を設定する力を身に付けている。(思)</p> <p>・入出力されるデータの流れを基に、計測・制御システムを構想する力を身に付けている。(思)</p> <p>・安全で適切なプログラムの制作と動作の確認、デバッグができる技能を身に付けている。(知)</p> <p>・計測・制御システムの制作の過程や問題解決の結果を評価し、改善及び修正する方法について考えている。(思)</p> <p>・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりしようとしている。(態)</p>		

令和7年度 評価規準

学校名:江戸川区立小岩第四中学校

教科	技術・家庭	分野	技術	学年	第3学年	②
単元名		時数	単元の到達目標(小単元のねらい)・内容		単元のまとまりの評価規準	
4編4章	社会の発展と情報の技術	15～16	<p>①情報の技術の最適化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の問題解決における最適化の場面を振り返り, 社会の問題解決における最適化と比較することができる。 ・社会からの要求 <ul style="list-style-type: none"> ・安全性 ・環境への負荷 ・経済性 ・情報の技術のプラス面, マイナス面について考え, これからどのように技術の最適化を図っていくとよいかをまとめることができる。 <p>②これからの情報の技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会の構築のために, これからの情報の技術について考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の技術の概念について理解している。(知) ・情報の技術の最適化について考えている。(思) 		
	技術分野の学習を終えて	17～17.5	<p>学んだことを社会に生かす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3学年間の技術の学習内容を振り返り, これから技術とどのように関わっていきたいか考えをまとめることができる。 ・地球環境や将来の世代のための技術について考え, 10年後, 50年後の未来を予測することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの情報の技術について考えている。(思) ・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて, 情報の技術を工夫し創造しようとしている。(態) 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて, 材料と加工, 生物育成, エネルギー変換, 情報の技術を工夫し創造しようとしている。(態) 	